

新鮮な感動  
熱い其感まき起す

# 大拡大全国労働運動

6.2 江東区  
総合区民センター  
を皮切りに

## 日刊 労働者千葉

86. 5. 27

No. 2250

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二(22)七二〇七

### 三波貫徹「全国鉄労働者総決起のカギ」 物販 上映運動の大成功をきこせ

二波のストライキの記録映画「俺たちは鉄路に生きる」の全国上映運動が各地で大きな拡がりを見せている。「上映運動の成功で正念場を迎えた国鉄『分割・民営化』阻止へ向けた反撃の陣形をつくりだそう」との労働千葉の真剣な訴えは、飛鳥田一雄前社会党委員長をはじめ、各地の地区労・単組の協賛など大きな共感を呼びおこしている。全支部・全組合員が総力で、上映運動成功のため奮闘し「分割・民営化」阻止の第三波・第四波の闘いの実現に向け突き進もう。

次々に上映運動の輪が拡大

六月二日、全国上映運動の第一弾として、江東区総合区民センターで上映会が開かれる。6・2の映画会は、新小岩支部を先頭とした精力的取り組みを通し葛飾区労協、江戸川区労協の賛同をえ、東水労をはじめ、数々の単産・単組の協力をもえて現在、連日傘下の各労組・支部・分会への要請行動が展開され、大きな成果をあげている。

また、六月十日・中野文化センター、六月十四日・横浜開港記念会館、六月二十日・立川市民ホール、六月二十一日・お茶の水・全電通会館ホールでの上映会の成功に向けた取り組みも各地での上映実行委員会結成、あるいは参同・呼びかけ人、地元労組などの協力をえて連日上映運動オルグ団が現地に出むき、あるいは泊りこみ体制で各労組・団体に対する要請行動を展開している。

圧倒的多数の労働者は、分割・民営化に反対している。

上映運動成功に向けた要請行動の中で明らかになったことは、多くの労働者や市民が邪悪な「分割・民営化」に反対をし、何んとしてもこれを阻止しようと考えており、労働千葉の闘いに大きな共感をよせているということである。

国鉄労働者十万人の首を問答無用で切り、労働運動をつぶし、権利ばかりか生命までも奪い、もって全労働者の抵抗をおしつぶす。一方では、ロイカル線切り捨て、莫大な借金の国民へのおしつけ、あげくに国民の財産とも言うべき、国鉄の資産を資本家や政治家どもが喰いものにする。これを支持しているのは資本家とそのイヌども、動労革マルだけなのだ。

多くの労働者は、国鉄労働者の決起に期待している。

各地域、全国へ打って出よう

「分割・民営化」をめぐる情勢は急ピッチで進んでいる。数多くの労働者、とりわけ一人でも多くの国鉄労働者はこの映画を見てもらうことを通し、労働千葉のストライキとは何なのかを訴え、共に「分割・民営化」阻止にたつことを訴えよう。全組合員が五月〜七月、各地域・全国へ打って出、その力で第三波・第四波の闘いを必ず実現しよう。

多くの労働組合、労働者の皆さんにこの記録映画を推せんします。

●働く労働者の姿は美しい



元横浜市長 飛鳥田一雄

誰れよりも鉄道を愛し、働き、そしてたたかってきた者が、がまんがまんをかさねて、ついにストライキにたちあがった。ここにいつさいの真実がある。ここに真実のたたかひがある。

この映画を見ると、けっして彼らを孤立させてはならない、そのことばかりを思う。この映画を民衆全体のものにするにはどうすればよいか、いまこそ知恵と力を出し合うときだ。

# 痴呆性老人の世界



「キネマ旬報」最新号(6月上旬号)「ドラマ」  
 昨年度のキネマ旬報「文化」  
 フォト・エッセイとなった羽田澄子  
 痴呆性老人の世界」が賞状を  
 公開された。この作品は、  
 収容されている痴呆性老人  
 通して、痴呆とは何か、何  
 はどのような人々で、い  
 きかを描いたトキエ・ク  
 ン、  
 照明は藤本武門さん、  
 森下大が担当している



『キネマ旬報』にも  
 紹介された  
 『俺たちは鉄路に生きる』

## ●力のある映像に

### 心をゆさぶられた

映画評論家 白井佳夫

動労千葉の国鉄分割・民営化に異議を  
 提出した行動と、その結果としてのスト  
 ライキを記録した映画「俺たちは鉄路に

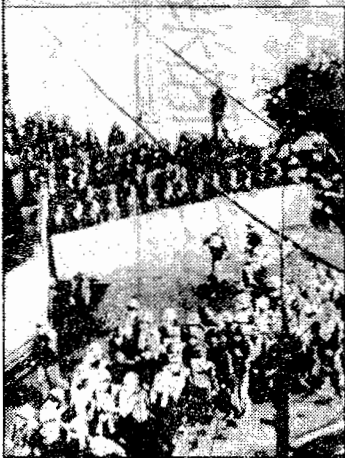


ザ・フロム



監督・脚本  
 ショーン

国鉄分割・民営化に反対して、その過激な  
 闘争ぶりで勇名をはせている動労千葉の、85  
 年11月から86年3月までの二波にわたるスト  
 ライキの記録映画が完成した。監督・撮影は  
 「切腹」「人間の条件」など日本を代表する名  
 カメラマンとしてだけでなく、70年の安保  
 闘争を記録した長編「怒りをうたえ」の監督  
 としても知られる宮島義勇。  
 上映予定は、6月2日-東京・江東区総合  
 区民センター、6月10日-中野文化センター、  
 6月14日-横浜開港記念館ホール  
 問い合わせ-製作上映委員0472-22-7207



## 俺たちは鉄路に生きる

国鉄千葉動力車労働組合作品 宮島義勇監督・撮影

生きるノ―第一報―」を見て、私は国鉄  
 問題にたいする認識を新たにしたい。  
 この問題を現在の日本のマスコミが一  
 般的に扱っているような方向に流されて  
 受けとり、考えてしまうことは誤りだ。  
 この映画は実証的な映像の力をもってそ  
 れを指し示してくれる。  
 この異議提出の行動がおこなわれている  
 最先端の現場のドキュメンタリーには、  
 机上の理屈や概念規定をみだしてしま  
 う現実的なものがある。この映画  
 の映像は、事の真実とそれがふくむ問題  
 の所在を何より雄弁に、具体的に、生き  
 生きとわれわれに語りかけてくるのであ  
 る。  
 力のある映像による現実証言のフィ  
 ルムを見て、私は久しぶりに心をゆさぶ  
 られた。